

4 肉用牛経営における地域資源活用による稼ぐ力の向上

【成果の要約】

(1) 自給粗飼料確保支援

ア 飼料用トウモロコシ

栽培実証を島内3町計6か所で行い、害虫による被害がなく高収量で、牛の嗜好性も良好であったことから次年度栽培への意欲が高まった。また、二期作栽培を導入した農家では、防除剤利用により収量が安定し、生産コスト低減が図られつつある。

イ トランスバーラ

畑かん利用や植付け作業の機械化により面積拡大が図られ、295haまで増加した。

ウ ハカマの回収利用

天城町農業青年クラブ、天城町と連携して回収利用実演会を開催して波及を図った結果、新たに1組織が稼働を始め、また、去年のモデル組織は利用者が3人から6人に拡大した。

(2) 経営改善支援と繁殖成績の向上

資金借入計画作成支援を行った農家を中心に技術診断を行い、3戸で飼養管理技術の改善指導を実施した。

1 対象

JAあまみ肉用牛振興会 1,121 戸，母牛用 ICT 機器活用農家 124 戸，哺育ロボット活用農家 9 戸

2 課題を取り上げた理由

生産牛経営は、子牛価格の低迷と飼料等資材価格の高騰で収益性が悪化しており、経営改善のための支援が必要である。生産費の低減方策として、高栄養作物のトウモロコシやトランスバーラの栽培推進と未利用資源のハカマの利用を広く波及することが必要である。また、生産性向上のために、繁殖管理技術や子牛育成技術の向上が必要であり、個別支援を主体に徹底を図る必要がある。

3 活動内容と成果

(1) 生産牛産地の基盤強化

ア 自給粗飼料確保支援

(ア) 高栄養作物の導入推進

飼料用トウモロコシ栽培の普及のために栽培実証を島内3町計6か所で行った。ツマジロクサヨトウ対策に生育初期防除剤を利用した結果、被害はなく高収量となった。生産牛へ青刈り給与し、牛の嗜好性も良好であったことから次年度栽培への意欲も高まった。また、二期作栽培を導入した農家では、ツマジロクサヨトウ生育初期防除剤の利用により被害が軽減され、収量が安定してきたことから、生産コスト低減が図られつつあり、高栄養作物としての栽培が定着している。



飼料用トウモロコシ現地検

トランスバーラについては、畑かん及び植付け作業の機械化により面積拡大が図られている。

(イ) ハカマの粗飼料利用推進

エコハカマの回収利用については、9月に天城町青年クラブ及び天城町と連携して回収利用実演会を開催した。その結果、新たに1組織が稼働を始め、また、昨年モデルとして立ち上げた組織は利用者が3人から5人に拡大した。一方、ハカマロールの組織についても回収利用を継続している。これらの取組については、セリ前研修会や牛飼い塾で生産者に情報提供し、利用推進を図った。



回収利用実演会



エコハカマ回収



エコハカマ採食状況

イ 経営改善支援と繁殖成績の向上

子牛価格の低迷と飼料等資材価格の高騰から、運転資金が不足する農家が見られ、運転資金借入要望が多かった。令和2～5年度に資金借入を支援した38戸の計画達成状況及び今年度新たに作成支援した21戸の現状把握のために技術診断を行い、飼養技術改善指導を行った。このうちの3戸を重点対象として選定し、関係機関と一体となって子牛発育調査と飼料給与指導を実施し、技術改善を図った。

新規就農者など経験の浅い農家に対しては、指導農業士と連携し、「牛飼い塾」を2回開催して技術向上を図った。



牛飼い塾

4 今後の課題

- (1) ハカマ回収利用については、耕畜連携を図り波及拡大するため、収穫後のほ場への堆肥の還元実証や良質堆肥生産などの取組が必要である。
- (2) 子牛価格は今年度から回復してきたものの、飼料は円安などの影響で価格が高止まりしており、今後も関係機関と連携しながら支援を継続する必要がある。

5 担当した普及職員（〇はチーフ）

〇西村，松本